

有田川浄水場設備更新事業 (平成9年度～14年度)

浄水場のリフレッシュ

昭和43年に完成し、昭和50年に拡張を行った有田川浄水場も28年が経過し、施設の劣化や老朽化が進んでいました。このため、平成9年から2年間をかけ、設備の更新計画を策定し、平成11年度から平成14年度に更新事業を実施しました。

更新計画では、耐用年数に達している機器を単に更新するだけでなく、機械や電気設備を診断し、全体的な見直しを行い、既存設備を有効利用しつつ、より安全で信頼性が高く、維持管理を容易にする内容としました。

この計画をさらに検討し、電力供給の安定化と高圧機器の遮断器やトランスに油を使用しないなどの環境対策を行うため、平成11年度と12年度に、有田川浄水場受変電設備設置工事・管理棟舎増築工事、取水ポンプ場受変電設備設置工事を行いました。



新しくなった受変電施設



受変電設備が入っている増築部分

平成13年度には、設備の老朽化が著しかった排水処理施設の更新工事を実施しました。汚泥の量が増えることが予想されたので、施設能力を増加させ、従来の熱交換処理方式を省エネタイプの加圧脱水方式に変更したことから電力使用量が激減し電力料金の節減が図られ、水道事業の経営安定に寄与しています。



加圧脱水方式の排水処理施設

また、病原性微生物の処理に関する水道法の暫定指針により、ろ過水濁度の管理が求められ、その対応策として凝集剤の注入率増加となり、汚泥発生量の増加が予測されたため、平成12年度には、第4拡沈澱池汚泥引抜装置設置工事を、平成14年度には、第5拡沈澱池汚泥掻寄機設置工事を行いました。

この結果、沈澱池を空にし人力によって行っていた汚泥の掻き寄せ作業を機械化することで、水処理作業の継続性が向上し、施設の効率的利用を図ることができました。



第4拡沈澱池汚泥引抜装置



第5拡沈澱池汚泥掻寄機

有田川
 浄水場設備
 更新事業

事業費	平成9年度	7,980千円
	10年度	19,425千円
	11年度	230,469千円
	12年度	220,807千円
	13年度	257,772千円
	14年度	150,353千円
	合計	886,806千円